



「開かれた議会づくりで 町政をもっと身近に」

白鷹町議会議長 遠藤 幸一

新年

あけましておめでとうございます。町民の皆様には、健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げますとともに、日ごろより議会活動にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年も、全国各地で集中豪雨や台風被害などに見舞われました。幸いにして我が町には、特筆すべき災害等は無く安堵しているところです。

さて、少子高齢化の中、本町では第5次白鷹町総合計画後期基本計画並びに地方創生の総合戦略等に沿って、日本の紅（あか）をつくる町推進事業など特色ある各種施策の取り組みを行っております。しかし、最近の出生数を見ると少子化が急激に進行しており、これからのまちづくりに大きく係わる重要な課題となっております。一朝一夕に解決できる特効薬はなく、総合的かつ継続的に取り組んでいかなければならないものと感じております。一方、まちづくり複合施設や新荒砥橋などの大規模事業が目に見えて着実に進んでおります。それらソフトとハードが調和し効果ある施策が展開されるよう、二元代表制の意義を踏まえ議会のチェック機能を強化していかなければなりません。

そのような中、今般、「少子・高齢社会における対応」など4項目にわたる政策提言を議会の総意としてまとめ、町長に提出したところです。

また、ホームページで会議録や政務活動費の内容について公開したり、議会中継をスマートフォンやタブレット端末からご覧いただけるようにするなど、「開かれた議会」づくりに努めております。そして昨年6月定例会には、定数を2削減し12名とする議員定数条例を可決したところであります。

今後も、議会の情報公開や説明責任を果たし、議員のなり手の確保や町民の皆様が町政に参画しやすい環境整備など、さらなる議会の活性化に取り組むとともに議論を深め、住んでみたい、住んで良かった、住み続けたいと思われるまちづくりにまい進する所存でありますので、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、町民の皆様方のご健康とご多幸を心からご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

